

2026 9/22

No.2267

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



県最古の神社と伝わる有鹿神社（海老名市）で、神社に親しみを持ってもらおうと生み出したオリジナルキャラクター「パンダ宮司」が、交流サイト（SNS）などで人気に。



政経かながわ

2026 9/22 No.2267

contents

視点点描

酷暑から選手の命を守れ

3

講演録

横浜グリーンエクスポ 最新情報について
2027年国際園芸博覧会協会事務次長

小池 政則氏

4

特集

罪深きイデオロギー先行 皇室典範改正

8

政治双眼鏡

「引きこもり外交」に懸念

赤根 I C C 所長への制裁で

12

舟越美夏×リアルワールド

消えゆく氷河は警告していた

13

神奈川景気データファイル

14

事務局だより

◇2026年10月定例講演会

10月26日(月)午後1時30分～3時
県民共済みらいホール
(桜木町駅近く)

講師：鉄道作家・ジャーナリスト
森川 天喜氏

演題：横浜駅をめぐる企業間攻防
ー鉄道とまちづくりの歴史ー

◇2026年11月定例講演会

11月19日(木)午後1時30分～3時
神奈川県民共済13階大会議室
(桜木町駅近く)

講師：料亭田中家5代目女将
平塚 あけみ氏

◇2026年12月定例講演会 (シンポジウム・会員交流会)

12月21日(月)午前11時～午後
1時30分

メルヴェーユ(桜木町駅近く)
パネリスト：

共同通信政治部長、
経済部長、外信部長

演題：2027年の動向を読む

【お知らせ】会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226)2121。

視点 点描



酷暑から選手の命を守れ

「今年は暑かった」。そんな通り一遍の言葉では片づけられない夏だった。気象庁が気温40度以上を「酷暑日」と命名し、その元年の観測記録は62地点144回に及んだ。

スポーツの現場では深刻な事態が相次いだ。8月にはラグビー・リーグワン2部の選手が練習後に熱中症の症状を訴え、亡くなる痛

ましい事故が発生した。日本ラグビー協会は緊急通達を出し、WBGT（暑さ指数）を15分間隔で測定し、31以上では原則として活動を中止・延期するなど、従来以上に厳しい対応を求めた。プロ野球でも、2軍戦で熱中症の選手が相次ぎ、試合が中止になるケースが起きた。

アスリートなら暑さにも強いと

いう常識は通用しない。むしろ、激しい運動をする人ほど暑熱環境では大きなリスクを抱える。その危機感高校スポーツにも広がる。夏の甲子園では暑さ対策として2部制やクーリングタイムなどが導入された。インターハイの陸上競技では、午後5時開始を実施した。競技終了が午後10時を過ぎたことには批判もあり、開催時期そのものの後ろ倒しが議論されている。記録や大会運営でなく、命を守ることを最優先に、開催時間や競技方法の模索が続く。

酷暑を前提に、競技のあり方を変える。単に、水分や塩分をこまめに取りましようという対症療法ではなく、スポーツだけに問われる安全管理でもない。建設、物流、製造、警備、清掃、農業など、屋外や高温環境で働く人がいる中小企業にとっても、極めて身近な問題だろう。

気温・湿度・輻射熱^{ふくしゃ}を反映したWBGTを測定し、一定の基準を超えたら作業を中止・延期する▽最も暑い時間帯を避けて勤務時間を変更する▽休憩場所を冷房の効いた場所に確保する▽経営者や管理職だけでなく、現場の社員にも中止を申し出てよいという権限を与える、といった仕組みが考えられる。

日本ラグビー協会は「選手の命を守ることは、あらゆる活動に優先する最優先事項であり、社会的責任です」と訴えた。大事な命が失われてからでは遅い。酷暑は、一時的な異常気象ではなく、これからの経営環境の一部になりつつある。暑熱対策とは、暑さに耐えるためではなく、仕事の時間、場所、方法を変え、必要なら「やめる」ための仕組みである。

（神奈川新聞社統合編集局次長兼

運動部長・畠山 卓也）